

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	令和7年度第1回入間市上下水道審議会
開 催 日 時	令和7年4月22日(火) 午後1時30分開会・午後4時10分閉会
開 催 場 所	入間市市民活動センター3階 活動室1
議 長 氏 名	入間市上下水道審議会 会長 相葉 学
出席委員(者)氏名	福島 和弘、岸本 貴志、大石 和宏、奥富 茂生、 村井 秀雄、佐々木 恵巳子、田中 啓子、 宮寺 弘隆、市原 義道、久保田 清美、青山 友子
欠席委員(者)氏名	近藤 孝夫、小川 晋、池上 公子
説明者の職氏名	5 議題 (1) 上下水道部次長兼上下水道経営課長 藤田拓也 5 議題 (2) 上下水道経営課 総務担当 山崎 元博
会 議 次 第 (公開・非公開の別)	1 開 会 2 会長あいさつ 3 市長あいさつ 4 諮問事項 (1) 水道料金および下水道使用料のあり方と改定の必要性 について (2) 上下水道ビジョン策定について 5 議題 (1) 上下水道事業の経営状況について (2) その他 6 閉 会
非 公 開 理 由	—
傍 聴 者 数	1人
配 布 資 料	・ 令和7年度第1回入間市上下水道審議会会議次第 ・ 資料1 水道事業の進捗状況 ・ 資料2 必要水道事業費資料

	<ul style="list-style-type: none"> ・資料３ 下水道事業の進捗状況 ・資料４ 入間市上下水道審議会開催スケジュール（案） ・席次表
事務局職員職氏名	上下水道部 石原部長 上下水道経営課 藤田次長、山崎副主幹、田島副主幹、松尾主査、 鈴木主事、小野寺主事補 水道施設課 内沼課長、野口主幹、山田主幹、細野主査 下水道施設課 高野課長、熊倉主幹、佐々木主幹、 田中副主幹、高田副主幹
会議録作成方法	要点筆記

会 議 録 （ 2 ）

議 事 の 概 要 （ 経 過 ） ・ 決 定 事 項

○委嘱状の交付

荒川右岸下水道事務所の永井委員と埼玉西部消防組合の小島委員に代わり、令和7年4月1日付で近藤委員と大石委員が新たに上下水道審議会委員となったことから、委嘱状を交付した。

○審議会の会議録

署名する委員については、村井 秀雄 委員が指名された。

○諮問事項

- （１） 水道料金及び下水道使用料のあり方と改定の必要性について
- （２） 上下水道ビジョン策定について

○議題

- （１） 上下水道事業の経営状況 について
- （２） その他

令和7年度第2回の上下水道審議会を6月30日に予定している。詳細については、詳細が決まり次第、通知する。

令和7年9月30日で上下水道審議会委員の任期が満了するにあたり、委員に10月1日以降も委員を継続できるか意向の調査を実施。

今年度から公開する議事録は、発言者が特定できないように匿名とする。

・ 報告以外で審議委員より意見があったため、下記のとおり記載。

会 議 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容
会 長	開会の挨拶
杉 島 市 長	挨拶 諮問 (諮問書の受け渡し、写真撮影)
会 長	(審議会開催にあたっての注意事項) 傍聴者入場
A 委 員	議題 (1) 上下水道事業の経営状況 について 水道事業の進捗状況 (資料 1) について (説明者：藤田次長兼課長、(株)日水コン 社) p. 1 の下に「将来目標に対して、実績値を比較して水道事業の進捗状況を把握」との記述があるが、例えば p. 2 では「適切に実施している」といった表現にとどまっている。具体的な目標値が設定されていないため、表現が難しいのかもしれないが、進捗状況がどのようなになっているのかが分かりにくい。
藤 田 次 長	ホームページ上では情報を公開しており、また、決算の際にも皆様に進捗状況の一覧をお配りしています。ただし、その資料では詳細な説明までは行っておらず、進捗状況が分かりにくいというご意見はごもっともだと思います。そのため、今後、より詳しくご説明できる機会を設けられるかどうか、検討させていただきたいと考えております。

発 言 者	発 言 内 容
A 委 員	<p>「適切に実施している」という表現ではなく、例えば「目標に対して30%進捗しており、予定通りである」といった具体的な数値や状況が記載されていれば、進捗状況をよりの確に把握することができる。「適切に」とだけ記されている場合、実際にどの程度進んでいるのかが不明確なので、その点を考慮いただきたい。</p> <p>p. 13に「料金回収率」の説明がある。専門家ではない利用者の立場からすると、「請求した料金がどの程度回収できたか」を示すものと受け取ったが、記載されている定義によれば、「給水に係る費用がどの程度給水収益で賄えているか」を表す指標とのことだ。一方、下水道では「経費回収率」という用語が用いられており、こちらの方が妥当なような気もするが、上水道と下水道で異なる用語を用いることについて、利用者としては分かりにくい表現と感じた。</p>
藤 田 次 長	<p>埼玉県が取りまとめている公営企業会計では、水道、下水道、病院等の各事業について、それぞれの経営状況が公開されており、その中で共通の用語として「料金回収率」が用いられています。意味合いとしては、下水道で使用されている「経費回収率」とほぼ同様に捉えていただいて差し支えありません。ただし、この用語については、私どもの方で変更することが難しいのが現状です。機会があれば、「分かりにくい」とのご意見を県にお伝えさせていただきたいと思います。</p>
A 委 員	<p>p. 10 では、職員の確保と技術継承について記載されており、「適切に実施している」とのことだが、掲載されているグラフは各年度の職員数を示しているに過ぎず、もともと必要とされていた人数に対して、実際の配置人数がどの程度であったのかが示されていない。実際には問題なく運営されていたものと思われるが、本来であれば、必要人員との比較を踏まえた上で、どのような状況であったかをまとめる方が、実施状況</p>

発 言 者	発 言 内 容
藤 田 次 長	<p>の評価としては適切ではないか。</p> <p>公務員については、経験年数に応じて業務量が増減するとは捉えず、あくまで人数を基準に職員が配置される傾向があります。そのため、この点が指標化しにくい要因の一つとなっています。実際には問題なく運営されたのではとのご指摘をいただきましたが、結果として何とか業務を完了できたという状況でございます。</p> <p>上水道と下水道が統合された際、定数上の職員数は 88 人とされておりましたが、現在の正職員数は 44 人にとどまっております。業務量は以前と変わらない一方で委託化が進んでおり、その背景には「ウオーター PPP（官民連携）」の推進という国の方針があります。これは、水道事業に民間企業の手法を取り入れ、将来的にはより民間に近い形での運営を目指すという考え方に基づいたものであり、JR や日本たばこ産業のように、事業全体を民間の力で推進していこうとするものです。</p> <p>こうした背景には、「技術の継承の難しさ」や「公務員による運営はコストが高い」といった見方も影響しております。現在は人件費が上昇傾向にあり、状況はさらに複雑さを増しています。</p> <p>入間市では、職員募集を行っても、民間との給与格差が大きいため、応募者がなかなか集まらないという実情があります。このような状況のもと、限られた人員で業務を遂行しているのが、当市の水道・下水道事業の現状です。職員の確保は依然として困難な課題ではありますが、少人数体制の中で、職員一人ひとりが意識改革を図り、民間の手法を積極的に取り入れることで、組織としての対応力を高めております。</p> <p>このように、定量的な指標としては表しにくい部分もございますが、可能な限り工夫を重ね、業務の質を維持する努力を続けております。明確なお答えになっていない点もあるかと存じますが、ご理解をいただければ幸いです。</p>

発 言 者	発 言 内 容
A 委 員	<p>今のお話を聞いて全体のイメージは把握できたが、職員数の不足については委託化を進めて対応しているとのことであり、また技術継承に関しても、例えば簡易な作業についてはマニュアルするなどの取組みを行っていると思う。こうした具体的な取組内容について記載すると良いのではないか。職員数を列挙した現状の表現では、かえって疑問を抱かせる可能性もあるため、表現の工夫について検討いただけるとありがたい。</p>
B 委 員	<p>先ほどの指標の説明の中で「県」という表現がありましたが、この指標は総務省が公営企業法に基づいて定めているものであり、全国一律となっております。そのため、県に申し入れても指標の呼び方が変更されることはございません。</p> <p>日水コンの説明にもありましたように、埼玉県の水供給は河川から取水し、広域的に供給を行っているため、全国的に見ても非常に低い料金で配水されていることが、先ほどの資料にも示されていたかと思います。ただし、老朽管の更新をはじめとするさまざまな投資が必要な状況にあり、来年4月から、20数年ぶりに料金改定をお願いすることとなりました。そのような事情がある中で、本日は委員としてこの場に参加させていただいておりますが、若干心苦しい面もございます。その点につきましては、ご理解をいただければ幸いです。</p> <p>それから、p. 11の今後の課題としてPFOS・PFOAが挙げられていますが、この問題が生じているのは、主に地下水を水源とする場合だと思えます。埼玉県企業局では河川から取水しており、毎月実施している水質検査においても、国の暫定目標値である50ng/Lに対して、非常に低い濃度しか検出されていないことを確認しております。また、入間市の水源である入間川の伏流水からも、PFOS・PFOAはほとんど検出されておられませ</p>

発 言 者	発 言 内 容
藤 田 次 長	<p>ん。そのため、今回のようなまとめ方ですと、誤解を招くおそれがあります。この点につきまして、留意していただけますようお願いいたします。</p> <p>ご指摘をいただきました PFOS・PFOA ですが、鍵山浄水場の水源である入間川の伏流水は、水質管理目標設定項目に定められた以前から水質検査を行っており、暫定目標値である 50 ng/L に対して、非常に低い濃度で推移していますので、問題ないと考えております。</p>
内 沼 課 長	<p>水質検査結果はホームページでも公表しております。入間市も県も、埼玉県の水道水は安心して飲んでいただくことができます。</p>
A 委 員	<p>p. 12 の経営比較分析表と p. 13 の指標について、これらの指標は決められたものなのか。内容を見てみると、経営というよりは事業運営の項目が多いように思う。</p>
藤 田 次 長	<p>これらの指標は、総務省によって定められており、公表することが義務づけられています。</p> <p>水道事業は、地方公共団体が経営する公営企業に分類されており、その会計処理は、民間企業と同様に貸借対照表や損益計算書を用いて行われています。ただ、先日会計士の先生とお話しさせていただいた際に感じたのですが、公営企業はやはり民間企業とは少し性質が異なるという印象を受けました。民間企業のように利益を追求したり、株主への配当を行ったりすることはなく、水道事業のような公営企業は公共性を重視した運営が求められます。</p> <p>このような公営企業を、民間企業と同じ複式簿記の形式で表すと、少しイメージがわかりにくくなる部分もあるかと思います。また、こうした指標を用いることで、他の水道事業との間で比較することが難しい面もある</p>

発 言 者	発 言 内 容
A 委 員	<p>のではないかと感じております。</p> <p>決められた指標ということであれば、そのことを念頭に置いて、これからは資料を見ていくことにしたい。</p> <p>必要水道事業費資料（資料２）について （説明者：藤田次長兼課長、（株）日水コン 徳富）</p>
C 委 員	<p>宮寺・二本木地区については、管路の耐震化が第２期以降となっている。当地区にも避難所や病院といった重要施設が存在しているにもかかわらず、令和１８年度までは耐震化が実施されないのか。人口が少ない地区であることを理由に、今期の整備対象から除外されたのであれば、公平な計画とは言い難い。地区の代表として、この計画には承服しかねるものであり、見解を伺いたい。</p>
内 沼 課 長	<p>全ての地区を一度に耐震化することは難しく、年間に実施できる事業量にも限りがある中で、市役所や病院、地区センターなどの重要施設を踏まえて、現在のような整備の順番とさせていただきました。決して、宮寺・二本木地区を意図的に後回しにしているということではございません。今回の検討にあたっては、各施設の重要性や位置づけを総合的に判断し、このような順番で進めさせていただきたいと考えております。何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。</p>
A 委 員	<p>今の話は、宮寺・二本木地区に限ったことではなく、全体的に言えることだと思う。料金の値上げにつながるような話であれば、一部の重要施設については市内全域で同時に着手し、それ以外については予算の都合により計画的に遅れていくというのであれば、市民としてある程度は納得する</p>

発 言 者	発 言 内 容
日 水 コ ン	<p>かもしれない。しかしながら、５年・６年といった遅れではなく、当初から１０年後の実施を前提とするような計画については、能登地方での被災状況などを踏まえると、心情的に受け入れがたいとを感じるかもしれない。</p> <p>宮寺・二本木地区は、藤沢配水場から配水している区域になりますが、すでに相当程度の耐震管が布設されております。このため、どのルートを優先的に耐震化するかを考えますと、まだ耐震化が済んでいない地区から着手することになります。比較的新しい管路が整備されている地区は、現時点では対応を急がなくてもよいと判断され、また、宮寺・二本木地区において耐震化が必要となる管路延長は比較的短いため、他の地区と比べても、状況は良好であると認識しております。</p>
A 委 員 会 長	<p>そのような内容が分かるような表現にした方がよいのではないかと。</p> <p>管路の耐震化率に関する p. 1 の文章「管路のうち送水管は 100%ですが、避難所等の重要施設までの管路は 30%であり」について、具体的な場所が記載されていれば、状況が理解しやすくなるかと思う。現時点では具体的な内容が見えないため、ご説明をいただけるとありがたい。</p>
藤 田 次 長	<p>これまで、管路の耐震化を継続的に進めてまいりましたが、能登地方で発生した地震を受けて、国の方針が見直され、避難所や市役所、病院といった重要施設を優先して耐震化を進めるようルールが変更されました。</p> <p>この新たな方針に基づき、改めて検討を行った結果、金子地区については既に耐震化が完了しているとの判断に至りました。また、宮寺・二本木地区におきましても、重要施設に至るルートについては耐震化が完了している状況です。</p>

発 言 者	発 言 内 容
野 口 主 幹	<p>送水管とは、浄水場と各配水場をつなぐ管路のことであり、給水管を接続することはありません。この送水管につきましては、すべて耐震管を使用しております。</p> <p>また、各配水場から地区センターや病院などの重要施設を結ぶ配水管につきましては、耐震化率が30%となっております。そのため、国の方針に基づき、まだ耐震化が実施されていない重要な配水管について、優先的に整備を進めるための路線の選定を行ったところです。</p>
C 委 員	<p>内容については概ね理解したが、現状の表現では、地域によって差があるようにも受け取られかねないので、もう少し分かりやすい表現にしてみたい。</p>
藤 田 次 長	<p>表現につきましては、ご指摘のとおり、今後検討させていただきますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。</p>
会 長	<p>先ほどの説明内容については、備考欄等に記載していただきたい。金子地区については「耐震化済」と明記されているため理解できるが、宮寺・二本木地区が第2期に位置付けられた理由も併せて記載されたい。</p>
C 委 員	<p>水道事業は独立採算性や受益者負担の原則に基づくため、難しさはあると認識しているが、今後、料金改定の在り方等を検討するにあたって、市からの出資や補助といった可能性についても、検討していただきたい。現時点では困難な印象を受けるものの、経営基盤の強化を目的とした市からの出資は、一定の条件下では可能ではないかと考えている。そのような可能性を感じており、次回の審議会では、詳しい説明をお願いしたい。</p> <p>また、国においても同様の動きがあると聞いており、料金を30～40%値上げすることで採算が取れるという判断があるかもしれないが、それで</p>

発 言 者	発 言 内 容
藤 田 次 長	<p>本当によいのだろうか。水道は、おそらくすべての市民が利用しているインフラであり、その重要性を踏まえれば、市からの出資や補助といった支援があってもよいのではないかと考える。</p> <p>さらに、下水道については既に市から出資がなされている。一方、宮寺・二本木地区は下水道の計画区域に含まれておらず、そのような地域の住民も税金を納めているにもかかわらず、水道整備が遅れているという現状がある。また、下水道利用者は都市計画税を払っているからよいといった見方もあるかもしれないが、実際には、都市計画税を納めていない賃貸住宅の入居者も下水道を利用している。</p> <p>このように、水道事業が公営企業である以上、制度上の制約はあるものの、市からの出資や補助の可能性については十分に検討の余地があると考ええる。次回の審議会において、その詳細についてご説明いただきたい。そして、それを踏まえて料金改定の在り方についても議論が深まることを期待している。</p> <p>市からの出資によって管路の更新を進めていくというお話は、以前にもいただいておりますが、上水道につきましては、ご指摘のとおり、地方公営企業法に基づき、独立採算性や受益者負担の原則が基本となっております。</p> <p>入間市の水道事業は、現時点では黒字で運営されており、国としても採算が取れている地域であると判断しているものと思われます。ただし、水道料金が比較的安価であることから、国の補助要件に該当するケースが少ないというのが現状でございます。全国的に見ても、水道料金が安価な自治体に対して国が補助を行うことにつきましては、「なぜ料金が安い地域に対して国費を投入しなければならないのか」という考えがあります。</p> <p>一方、人口が少なく、収益性が見込めない地域においては、多額の費用をかけて管路整備を進める必要があり、そのような地域を優先的に補助対</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>展したと捉え、「概ね予定通りに実施している」という表現とさせていただきます。</p>
A 委 員	<p>p. 4 のグラフと p. 8 の文章を見比べると矛盾しているように見えるので、そのようなことであれば表現を一致させた方がよい。</p>
高 野 課 長	<p>ご指摘の件につきまして、適切な表現を検討のうえ、修正させていただきます。</p>
A 委 員	<p>p. 1 6 の表で、経常収支比率は「一般会計負担分等を含む」との記載があり、評価の絵文字は「笑顔」となっている。一方、経費回収率は「一般会計に依存している」との記載があり、評価の絵文字は「苦虫」となっている。両方を見比べて、どちらの評価が正しいのだろうか。独立採算を目指すのであれば、評価は「苦虫」が正解と思うが、そうでないなら「笑顔」でもよいのではないか。2つの評価の違いを教えてください。</p>
藤 田 次 長	<p>経常収支を計算する際には、一般会計からの繰入れを含めたうえで、利益が出ているかどうかを評価します。一方、経費回収率につきましては、国が推進している独立採算の観点から用いられる指標であり、公費を除いた形で採算性を評価するものです。そのため、繰入分は除外して算出し、どの程度公費に依存しているかを確認することになります。これらの違いについて、ご理解いただけますと幸いです。</p>
A 委 員	<p>今の説明において独立採算を目指すという話があったので、そうであれば経常収支も同じ観点になるのではないか。</p>
藤 田 次 長	<p>ご指摘の通りですが、これは計算式がこのように決められるということ</p>

発 言 者	発 言 内 容
日 水 コ ン	<p>でよろしいですか。</p> <p>経常収支比率につきましては、財源が使用料収入であっても、一般会計からの補助金であっても関係なく、まず赤字か黒字かを確認するための指標となっています。入間市の場合は、この比率が 100%を超えていますので、財源の種類は問わず、評価の絵文字は「笑顔」とさせていただいております。</p> <p>一方、経費回収率につきましては、汚水処理原価に対して、その財源となる使用料収入で 100%を賄えているかどうかを確認する指標となっています。そのため、評価の絵文字は「苦虫」とさせていただいております。現在の値はおおよそ 93%であり、100%との差分につきましては、一般会計からの補助金に依存していることを示しています。このように、両者は似たような指標ではありますが、着目する点が異なるため、正反対の評価となっております。</p> <p>いずれも一般会計からの補助金に依存している状況にありますので、下水道事業としてどちらの指標を重視するかにつきましては、経費回収率を優先して 100%以上を目指す政策を取ることが最も有利ではあります。ただし、その場合には受益者負担が増加することになりますので、公費負担と受益者負担のバランスをどのように取るかについては、下水道事業を運営する事業体や、所属する自治体の判断により、どちらに重きを置くかが異なってくるものと思われます。入間市としてどちらを重視するかにつきましても、慎重な判断が求められるところでございます。</p>
A 委 員	<p>見栄えの問題で言うと、内容の列の「一般会計負担分等を含む」という説明を記載しない方がよいのではないかと。この説明と評価が矛盾しているように見えてしまう。</p>

発 言 者	発 言 内 容
D 委 員	指標として、両方を載せなければいけないのか。
日 水 コ ン	公表されている経営比較分析表には、両方の指標が掲載されておりますので、経営比較分析表をベースとする場合には、両方を掲載する必要がございます。また、入間市の下水道事業として事業を評価する際には、どちらか一方の指標を選択して用いることも可能です。
A 委 員	今回の指摘は表現方法に関することであり、検討していただけるとありがたい。
D 委 員	経費回収率のマイナスの幅がどれぐらいか教えてほしい。
日 水 コ ン	100%が目標値になりますので、100%－93%でマイナスは 7%ということになります。
D 委 員	経費回収率の分母と分子を教えてほしい。
日 水 コ ン	分母が汚水処理原価で、分子が使用量単価です。
A 委 員	今回の資料のデータは、上水道と下水道ともに令和5年度までになっているが、令和6年度のデータはいつ頃に公表されるのか。
藤 田 次 長	決算認定が終わる10月以降になりますので、現状は令和5年度が最新のデータということになります。
A 委 員	次回の審議会で、参考値として令和6年度のデータを出すことはできないのか。

発 言 者	発 言 内 容
藤 田 次 長	データをまとめている段階であり、次回の審議会でご提示することは困難です。
A 委 員	公表されてみて、思っていたほど数字が良くなかったというようなことにならないか不安がある。
藤 田 次 長	令和5年度のデータをもとに考えますと、令和6年度のデータはやや悪化することが予想されております。ただし、入間市特有の状況として、前回ご報告いたしました「わらべやデリカ」といううどんやそばの工場が稼働を開始したことにより、一定の収益増が見込まれております。ただし、全体としてV字回復するような状況ではなく、引き続き同様の傾向が続くものと予想されます。
A 委 員	私もかつては、ある程度の見込み額に基づいて計画を立てた経験があるが、そのような対応を取ることはできないのか。
藤 田 次 長	行政としては、見込み額に基づいて計画を立てることは難しいです。
A 委 員	分かりました。
C 委 員	<p>宮寺・二本木地区には飛び地の下水道区域が存在し、下水管が下水道の区域外を通っている。例えば、宮寺・二本木地区では、市街化区域で処理された下水が市街化調整区域を通り、藤沢地区まで下水管が延びている。金子地区についても同様に、駅周辺が市街化区域となっており、市街化調整区域を経由して下水管が布設されているものと考えられる。</p> <p>このような区域外においても、下水道への接続が可能であるのか、また</p>

発 言 者	発 言 内 容
藤 田 次 長	<p>た。委託期間は2年間、期限は令和9年3月17日まで、予算規模は6,800万円と記載されているが、この場合、令和9年3月17日をもって業務が終了するということなのか。</p> <p>上下水道ビジョンの策定につきましては、令和9年3月17日までの契約を結んでいます。そこから先、どのような事業があるかについては、これからの話になりますが、もしコンサルタントのお力を借りたいという事業があれば、部内で相談しながら、予算化していくことになります。</p>
副 会 長	<p>(閉会の挨拶)</p> <p>皆さんおつかれさまでした。本日はとても白熱した議論が行われました。水は私たちにとって身近なものであり、特に料金がかかるものですので、安ければ利用者としては大変助かります。しかし、このままの状況ではうまくいかないのであれば、未来の子どもたちのためにどのようにすべきかを考えながら、私たちはこの会議を進めていかなければならないと思っています。</p> <p>皆さまが非常に熱心に勉強されていることに、驚かされました。これからも一緒に協力しながら、頑張ってまいりましょう。どうぞよろしくお願いいたします。</p>

議事の内容・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

年 月 日

議 長 の 署 名 _____

議長が指名した者の署名 _____